

スミレ考

五十嵐 博

ここ数年、春になるとスミレのことを考える。今年こそは、北海道内のスミレ類の検索表を作ろうとか、スミレの図譜に挑戦してみよう、などと思っているうちに春は足早に過ぎ去って、スミレの季節は終わってしまう。

平凡社の日本の野生植物Ⅱによれば日本全体に約50種類(変種・品種含まず)のスミレがあることになっている。では、北海道にはいったい何種類のスミレが生育しているのだろうか。

本会の会長である伊藤先生の書かれた「北海道の高山植物と山草」からスミレを拾いだしてみると表-1のように、37種類であった。

原先生を中心として調査した「札幌の植物」では札幌及びその周辺で、20種類が確認されている。大井次三郎著：新日本植物誌(至文堂)には29種類、保育社の原色日本植物図鑑で31種類、平凡社の日本の野生植物で、34種類が北海道分布と記載してある。これらに加えて、新版・北海道の花(北大図書刊行会)、北海道の高山植物(北海道新聞社)、北海道植物図鑑(噴火湾社)、東北海道の植物(カトウ書館)、日本山野草・樹木生態図鑑(全国農村教育協会)などの出版物から、スミレを拾いだすとその合計は51種類となった。北海道高等植物目録(たぐぎん総合研究所)は、離弁花類が未完なので、これが出版されれば全道のスミレ類は確定すると思われるので、今後に期待したい。

今回作成した表も、?印が若干ある。最近の新聞紙上でも、シロバナフギレオオバキスミレの確認記事があり、今後の増加や整理なども必要であろう。表-1は、あくまで案であるので読者諸賢の批判や助言をお願いする。

他のよい資料があれば教えていただきたい。

表の配列は、学名のアルファベット順である。変種・品種は、基本種の後ろに一字づらして記載した。

スミレを考えるなどと、大それたタイトルで始めたが、前記したように北海道には約50種類程の

スミレが分布している。やはり、前記したが、原先生他の調査では、札幌周辺でその内の60%に当たる20種類が分布している。

昨年度から白老町のポロト湖やヨコスト湿原を調査しているので、白老と札幌のスミレを比較して見たのが、表-2である。

白老町全域の植物目録はまだ発表されていないが地元の有志の方々が数年来調査中である。

白老に関しては、原先生のいぶり植物目録や昨年度のポロト湖周辺やヨコスト湿原植物調査(当社)を合計すると15種類のスミレが確認されている。白老と札幌の記録を合計すると25種類と全道の約半数が見られている。

白老だけの分布種は、オオバキスミレ、サクラスミレ、シロバナスミレ、ヒナスミレ、ヒカゲスミレの5種類で、札幌だけの分布はジンヨウキスミレ、キバナノコマノツメ、ウスバスミレ、タニマスミレ、アオイスミレ、オオバタチツボスミレ、ニオイシミレ、アイヌタチツボスミレ、スミレサイシンの10種類である。ポロトの特徴は何と言ってもオオバキスミレ、サクラスミレ、ヒナスミレに代表される。海岸よりのヨコストの場合はイソスミレ、スミレ、シロバナスミレ等が特徴となる。今後の広域の調査により白老地区での出現の可能性がある種類として、オオバタチツボスミレ、アイヌタチツボスミレ、スミレサイシン等の確認が期待される。

白老と札幌では基本種に共通点もあるが、かなり種類に差がある。これは白老が道南要素を持つ点と、札幌の記録が余市岳、無意根山、漁岳、小漁岳等の高山を含み、黄花タイプであるジンヨウキスミレ、キバナノコマノツメ等の高山系スミレを擁するに対して、白老の資料にホロホロ山等の高山関係の調査資料が含まれていないことが原因である。黄花系ではオオバキスミレのような比較的、低山タイプのスミレが札幌では見られず、札幌より北の浜益等で隔離分布として、フギレオオバキスミレが分布している。

札幌の場合、藻岩山がスミレ類の宝庫で原先生の調査でも分布のトップの部類である。地点別では余市岳が8種類と一番多く、空沼岳の7種類と藻岩山は同数である。

No	種名 (変種・品種含む)	文献No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.	エゾノタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2.	シロバナエゾノタチツボスミレ ?											●?
3.	ケナシエゾノタチツボスミレ				●	●						
*4.	ジンヨウキスミレ		●	●	●	●	●	●	●			
*5.	キバナノコマノツメ		●	●	●	●	●	●	●		●	●
6.	ウスバスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7.	ケウスバスミレ(チシマウスバスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*8.	オオバキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*9.	ミヤマキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*10.	フチゲオオバキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*11.	フギレオオバキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*12.	エゾキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*14.	フギレキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*15.	トカチキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*16.	コバナエゾキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17.	マルバケスミレ(エゾノアオイスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*18.	タカネスミレ(タカネキスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19.	タニマスミレ(オクヤマスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20.	タチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21.	ケタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22.	オトメスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
23.	サクラスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
24.	アオイスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25.	コスミレ ?		●	●	●	●	●?	●	●	●	●	●
26.	オオバタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
27.	シレットコスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
28.	オオタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
29.	スミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
30.	シロガネスミレ(スミレの白花) ?		●?	●	●	●	●	●	●	●	●	●
31.	アナマスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32.	ニオイタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
33.	ニオイスミレ[帰化]		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34.	シロバナスミレ(シロスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
35.	アカネスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
36.	タチスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
37.	アケボノスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
38.	ナガハシスミレ(テングスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39.	アイヌタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
40.	アボイタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
41.	イワマタチツボスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
42.	ミヤマスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
43.	シロバナミヤマスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
44.	ワイリミヤマスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
45.	イソスミレ(セナムスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
46.	エゾヒナスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ヒナスミレ(アラゲスミレ) ?		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
47.	スミレサイシン		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
48.	ツボスミレ(ニョイスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
49.	アギスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
50.	ヒカゲスミレ(エゾコスミレ)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*51.	シソバキスミレ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
合 計			37	20	29	31	34	27	34	21	20	26

*印は黄花のスミレを示す(13種)

参考資料・文献

- (1) 伊藤 浩司 北海道の高山植物と山草. 誠文堂新光社
- (2) 原 松次他 札幌の植物目録. 北海道植物友の会 未発表 1987~1990年調査
- (3) 大井次三郎 新日本植物誌. 顕花編. 至文堂
- (4) 北村・村田 原色日本植物図鑑. 草本編Ⅱ・離弁花類. 保育社
- (5) 榎山 泰一 日本の野生植物Ⅱ. 草本. 離弁花類. 平凡社
- (6) 鮫島・辻井他 新版・北海道の花. 北海道図書刊行会
- (7) 梅沢 俊 北海道の高山植物. 北海道新聞社
- (8) 原 松次 北海道植物図鑑. 上・中・下. 噴火湾社
- (9) 滝田 謙讓 東北海道の植物. カトウ書館
- (10) 桑原 他 日本山野草・樹木生態図鑑. 全国農村教育協会

表-2

白老のポロト湖周辺では+印をつけた、エゾノタチツボスミレ、オオバキスミレ、タチツボスミレ、サクラスミレ、オオタチツボスミレ、ミヤマスミレ、フイリミヤマスミレ、ヒナスミレ、ツボスミレ、アギスミレの10種類が、ヨコスト湿原では、サクラスミレ、スミレ、シロバナスミレ、イソスミレ、アギスミレの5種類が昨年確認できた。これらの手持ちの資料以外にも今後の詳細な調査によって新しい分布確認が見つかるかも知れない。

表-1に対して補足すると、ヒナスミレとエゾヒナスミレを連記したのは、文献(3)、(4)の大井と榎山の見解の差が理由である。

スミレ類の生態を知る上で最近の植物生態学は昆虫、特にアリ類との関係を論じるようになってきている。これは、種子散布に対する協力者ということである。種子はサヤに強く挟みつけられて約2m程度は飛ぶらしいが、分布を拡大するためにはアリによって運ばれる。これらはカタクリなどで有名である。今後のスミレ類の分布調査はアリの生態調査を行いながらやらねばならないようだ。

植物の1億年以上の進化の中で、昆虫類との関係は今後多くの観察記録などで新しい知識や見解が数多く発表されるかも知れない。最近、読んだ「マルハナバチの経済学」などは非常におもしろい本であった。生き物同志のかかわりというものには興味のつきないものである。

昨年は多くのスミレ達に出会うことができた。今年はどうであろうか。

浜益で見たフギレオオバキスミレ、ポロトでのオオバキスミレ、サクラスミレ、ヒナスミレ、道路の両側を咲き乱れたタチツボスミレの群落、屯田や雨竜沼で出会ったオオバタチツボスミレ、藻岩山のアカネスミレ、北大植物園のニオイスマミレ、石狩やヨコストでのイソスミレ、西岡のエゾノタチツボスミレなど、今年、黄色のスミレを見に山に登ろうかなどと考えている今日この頃である。

No	種名	白老	札幌
1	エゾノタチツボスミレ	+	○
2	ジンヨウキスミレ		○
3	キバナノコマノツメ		○
4	ウスバスミレ		○
5	オオバキスミレ	+	○
6	タニマスミレ		○
7	タチツボスミレ	+	○
8	オトメスミレ		○
9	サクラスミレ	+	○
10	アオイスマミレ		○
11	オオバタチツボスミレ		○
12	オオタチツボスミレ	+	○
13	スミレ		○
14	ニオイスマミレ		○
15	シロバナスミレ		○
16	アカネスミレ		○
17	アイヌタチツボスミレ		○
18	ミヤマスミレ	+	○
19	フイリミヤマスミレ	+	○
20	イソスミレ		○
21	ヒナスミレ	+	○
22	スミレサイシン		○
23	ツボスミレ	+	○
24	アギスミレ	+	○
25	ヒカゲスミレ		○
合計	25		15
			20



エゾヒナスミレ
Viola takedana
v. austroezoensis